

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792700017		
法人名	医療法人愛和会		
事業所名	グループホームさわふじ		
所在地	沖縄県中頭郡西原町呉屋73番地1		
自己評価作成日	平成23年8月12日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4792700017&SCD=320&PCD=47>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-25-7 セントラルハイム南西303号
訪問調査日	平成23年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさわふじは、平成19年、西原町で初めて指定を受け、町内で唯一の地域密着型サービスです。町内を流れる「小波津川」は、昔ながらの住人の方々は殆どが周知している馴染みの川。その川沿いは、静かな場所です。近所には、八百屋や理美容室などが建ち並び、生活するのに便利な地域にホームは開設ができました。また、公共機関や病院、大手のスーパーなども車で10分～15分内の場所にあります。日常の用事は、入居者様と出かけるようにし、地域の方々との触れ合いを楽しんでいます。地域の皆様やご家族の皆様を支えられ日々の生活支援が来ています。ホーム内は、玄関を入ると、天井の高いリビングがあります。リビングは天窓があたり天窓から差し日差しから天気・時間・季節を感じることが出来ます。リビングを囲む様に9個の個室が並んでいます。「広い森から落ち着ける穴蔵へ入る」というコンセプト設計です。法人の基本理念を基にケア理念を介護職員が構築、日々ケアにあたっています。23年度は、地域との繋がりを重視し、取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に開かれたホーム」を目指して、開所時から自治会に加入し、地域の行事や活動に積極的に参加して交流を回り、事業所においても地域交流会の開催や各種ボランティア等を受け入れ、近隣住民と馴染みの関係を築いている。運営推進会議を定期的に開催し、事業所の課題について各委員と協議し、地域連携の強化や災害対策等、事業所の取り組みに反映させている。また、行政との協力関係を築き、母体法人と連携しながら地域での認知症高齢者の生活を支援している。事業所内は、静かな音楽が流れ、入居者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。食事内容も充実し、台所には野菜や果物を飾り、庭には季節の野菜を植え、豊かな自然の彩りを感じ楽しめるよう工夫している。日常的な外出に加え、毎月屋外活動を企画し家族と共に多方面へ出かける等、生きがい支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成19年ホームの開設と同時に、介護職員が地域密着型の役割をふまえ、独自の理念を構築した。認知症ケア、チームケアに迷ったときは、いつでも振り返り議論している。	「個々の暮らし方を尊重し、地域に開かれたホーム」を目指した事業所の理念は日々確認できるよう掲示している。管理者は、理念がケアに反映されてないと気づいた時は、定例会で職員間の理念への共通認識を図り、入居者本位のケアに繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の年間行事、地域で毎月行われている高齢者の集い「いいあんべー共生事業」など、地域の活動へ継続して参加をしている。日々の日課でも入居者と地域へ出かけるよう努めている。	自治会に加入し、入居者は地域行事やミニデイ等に参加している。ミニデイで管理者による認知症講座や法人看護師による健康チェック等で事業所の専門性を活かしている。日々の散歩等を通して地域住民と触れ合いやおやつ差し入れを受けたり、地域交流等では住民も訪れて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の正しい理解」を目的に地域の方々向けの勉強会を実施。今後は、地域の企業向けに、キャラバンメイト、サポーター促進を検討中。その他、地域で職員が認知症ケアを行うことも一つの手本だと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催が出来ている。委員の皆様からの意見も活発に頂いている。今年度は、地域との繋がりを強化することを目的に、住人代表や社会福祉協議会の参加を依頼、委員の編成を行った。	運営推進会議は、行政担当者や家族等が参加して2か月毎に開催している。会議では入居者の状況や活動報告、検討事項について意見交換している。また、外部評価結果の課題(災害対策)についても協議し、地域との連携強化に向けた委員構成や消防訓練への住民参加等に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、確実に参加して頂き、ホーム内の状況や要望を伝えることができる。日頃から、連携が取れるよう努めている。	行政担当者には日頃から事業所の状況等を伝えたり、運営推進会議でも意見交換をしている。地域交流会の開催やスプリンクラー設置等についても行政担当者に相談し協力を得ている。また、事業所の災害対策や地域防災については行政と連携して取り組む等の体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束について」の勉強会を開催。身体拘束禁止について学んでいる。言葉での行動制限についても意識を高めるよう、学びを深めている。	身体拘束については、法人内の地域密着型サービス事業所と合同の勉強会等で理解を深め、日々のケアの確認や職員の共有認識を図っている。入居者の行動を抑制せず、安全面の配慮の確保に努め、日中玄関の施錠はしていない。家族に対してもリスクについて説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の地域密着型サービス事業所(3箇所の部署)の職員で勉強会を開催、継続している。その中で、理解を深めている。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、又は、必要に応じて家族会等で話し合い、説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意思確認等のアンケートを今年度も行っていない。ご家族の意見は、面会時に話してくれることが多い。また、電話や文書などでFAX文書で伝えて下さることもある。毎月、ご家族宛にお便りを送付している。ご家族からの意見は、全職員で把握、解決に向けられるよう話し合っている。外部の相談員も活用することを検討中。	入居者の要望は直接の訴えや行動等で、家族からは、日常の訪問や行事の他、電話やFAX等も介して把握している。家族から「入居者を中心にした地域交流会にして欲しい」との声には、西原町からの敬老祝金の授与式を交流会で行えるよう行政に働きかけて実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内研修時、法人代表と職員の懇談会を設け、職員の意見を聞ける機会としている。	管理者は、日々の業務の中で職員から「カラオケや歌集を充実させたい」等の提案を受け、定例会で検討して改善に繋げている。また、管理者は職員との個人面談を実施して直に意見交換をしている。職員の勤務配置は、入居者の状況を見ながら希望に沿うよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員の面談を基に、努力実績などを代表者へ報告している。代表者は、評価に努め常に職場環境の整備、職員のやりがいに繋げられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の人材育成一環とし、新人研修やキャリアアップ研修を行っている。代表者と職員が意見を言い合える場面の設定をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH連絡会研修や県実践者研修へ積極的に参加し交流に努めている。また、他GHから職員の研修受け入れを行い交流を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期から現在に至るまで、毎日、繰り返し行っている。日々の状態を観察し、安心と安楽を提供出来るように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を取り入れ努めている。ご家族が面会にこられて際は、日々の状況報告を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向にあった必要なサービスや関係機関などと相談や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にやって頂ける生活動作は、手伝っていただく様にしている。無理強いせず、利用者の気分に合わせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の買い物や外出、病院受診など本人と関わる時間を設けて頂けるよう、家族に声かけをしている。また、年間行事など活用し、本人と家族の絆が保てるよう支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の一人ひとりが大事にしていることを把握し、馴染みの地域行事に出かけたり、馴染みの行事旧盆など、家族が対応困難と感じている利用者については、職員と一緒に介助をし自宅へ伺っている。普段でも気軽に自宅へ職員と訪ね関係性を大事にしている。	入居者のこれまでの関わりは、日頃のケアの中で本人から聞いたり、家族や地域の人等の情報で把握している。入居者が会いたいと希望する知人や親族への電話をかけたり、地域の敬老会、綱引き等の行事への参加等、馴染みの人や場所との繋がりが途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や特徴、また、その日の精神状態を把握し、孤独感を感じることがないように支援に努めている。互いの相性についても配慮している。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、時折、面会を行った。サービス変更の際も相談をおこなった。これまで退居した方々はお二人おられるが、他界された。地域におられるご家族との繋がりは継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の支援の中で、本人の思いや変化を察することが出来るよう努めている。一人ひとりの小さな変化に気がつけるよう情報の共有している。出来る範囲の希望、意向は実践するよう努めている。	入居者と会話を通して本人の気持ちや思いを汲み取ったり、家族との情報交換等で把握している。発語が困難な場合は、本人に寄り添い、表情や行動から訴えを見逃さないよう努め、定例会でも入居者個々の状況を確認し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、日々ご本人との会話の中、ご家族の面会時、サービス担当者会議など、様々な場面で本人のバックボーンの引き出しを行い、把握するよう努めている。また、共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況は、介護記録や日誌に記入し全職員が把握できる様にしている。一人ひとりが出来ることを把握し、役割として実践できるよう支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを毎月の職員定例会議で行うようにし、利用者の細かな変化、課題解決の検討、ケア内容の共有を図っている。必要に応じ、サービス担当者会議を開催している。	サービス担当者会議には、入居者本人や家族も参加して意向を反映した介護計画を作成している。今年度より、毎月、職員全員で入居者毎のモニタリング、定期的な見直しや状態変化に応じた随時の見直しを実施し、現状に即した介護計画の作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、出来るだけ細かく、利用者の表情やその日の思いが汲み取れるような記録をするよう努めている。勤務者は、記録を確認し把握した上で、一日の支援に取り組むことにしている。情報は、モニタリング、サービス会議に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	課題に対応できるよう努めている。ご家族支援も重要な課題と考えている。支援ができるよう職員間で話し合いを持っている。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源よりも職員の支援が中心となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援方法は、これまでと変わりなく支援を継続している。本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。必要時には、専門医に受診するなどの対応を主治医と連携し行っている。定期受診は、家族同行することになっているが、家族のみの場合は、情報提供書を届けている。定期受診にご家族が同行できない場合は、受診後報告をしている。	全入居者は希望する医療機関を家族対応で受診している。管理者は、受診に同行して主治医等と情報を共有する等関係を築く機会をつくり、入居者の健康管理や状態変化に応じた支援に繋げている。今年から歯科検診を全員行うようにしていて、歯科受診は、外来受診の他、ケアプランに基づき必要な方は往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問と、24時間、365日の緊急対応を行っている。細かな変化など、相談ができるようにしている。週一回の訪問看護時は、介護職員が様子の報告を行い、情報の共有をしている。看護師は主治医との連携も行い適切な医療支援に努めている。屋外活動時は、看護師が同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホーム内の生活情報提供書(ケアマネ作成)を提供し、認知症の症状やADLなど情報提供している。入院中や退院に向けて、様々な相談場面は、ケアマネが参加し連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にむけ、サービス担当者会議で検討した方もおられるが、全員ではない。終末期受け入れに対しての職員の意識向上を図る目的で、勉強会を実施。今後も課題である。	重度化や終末期に向け、法人医療機関と連携を図りながら職員研修の実施等に取り組んでいるが、事業所の方針は明示していない。重度化に向け入居者や家族の意向を検討した事例はあるが、事業所の方針を明示した入居者や家族への説明や意向の確認等の実施には至らず、今後の課題としている。	重度化や終末期に向けた対応については、事業所の体制等(医療連携や職員体制等)を考慮しながら方針を明確にして、入居者や家族等への周知を図ってほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2、3年に1回、救急救命法の研修を受講。部署で勉強会も行い緊急時に備えられるよう努めている。急変時・事故発生時は、マニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練に努めている。行政、地域を巻き込み訓練を実施。防災避難訓練と共に、消火器使用訓練、消防隊による自然災害についての講話を行い地域の方々と自然災害への意識を高めることに努めている。	消防署や行政、地域住民等が参加して昼夜想定での防火避難訓練を年2回実施している。事業所内は自動通報装置やスプリンクラー等の防災設備が整い、マニュアル等も職員が見やすい場所に貼りだし周知を図っている。今年3月の津波警報時は、水害対策として母体法人に入居者全員で避難している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄動作時、本人のペースにあわせて丁寧に、極力同姓で、介助は行うようにしている。言葉かけには、十分配慮をしている、利用者一人ひとりを尊重しているが、時に職員間で意識、方法の異なることがある。常に意識することが必要と考えている。	入居者の尊厳の保持については、勉強会を繰り返し、認知症の理解や一人ひとりの思いを大切に接し方や言葉かけ、配慮を要する事等情報を共有して支援している。対応が気になる時は、職員間で注意し合っている。個人情報の書類等も厳重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できる様な言葉かけを工夫している。日頃の関係作り大切にし、利用者の方々が気がねなく意思表示できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の気分や状況に、ペースに合わせて柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着や外出時などは、出来るだけ本人と選択している。職員は、徐々に好み把握できてきたように思う。毎日行えないが、外出の際は、習慣がある方は、お化粧をして出かける。理美容など、近所の理美容室へ出かけて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンになっている。利用者の方々と食事の準備や片付けは、出来る限り一緒に行うよう促している。また、カウンターには、旬の野菜や果物を置き、視覚や触覚で楽しんで頂けるよう工夫している。献立は旬な美味しいものを提供するためその日、その都度組み立てている。	入居者は個々の力に合わせ、お膳拭きや食事の準備等を職員と共に行っている。食事は、1汁3菜を心がけ、栄養や色彩、盛り付け等法人栄養士による食事の抜き打ちチェックで評価も受けている。食事が楽しみとなるよう台所には旬の野菜や果物を飾り、職員も入居者と一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に1～2回、法人より管理栄養士とその他職員が抜き打ち調査を行う。献立の確認や提供している量、カロリーなど確認、評価を行う。同時に衛生面等も確認する。食事摂取量のチェック・水分摂取量は、カルテに記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアには努めている。個々によって必要に応じ、歯科医・歯科衛生士からの口腔ケア指導を受け実践している。		

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるよう支援に努めている。皮膚の状態にも配慮し、紙パンツから綿パンツ+尿取りパットへ変更するよう工夫をしている。利用者に快適に、また自信に繋がれるよう努めている。	入居当初は、オムツ対応の入居者も排泄パターンを把握してトイレへ誘導し、全員がトイレでの排泄を支援している。またオムツ外しを実践し、夜間も布パンツと尿パットを併用して対応している。同性介助に努め、尿失敗時は、自尊心を傷つけないようにさりげなく声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	努めている。利用者の状況に合わせ、個々に合った方法を取り入れている。必要があれば、主治医と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に午前中に入浴して頂いているが、日々の利用者の気分や状態によって、無理なく入浴できるよういつでも対応をしている。毎日、入浴する方もいれば、週2～3回の方もいるので、各利用者の希望に沿い支援している。 また、利用者の状況によって、清拭を行い清潔を保つように支援している。	入浴は本人の希望や体調等に配慮して希望に添うよう努め、同姓対応を基本として支援している。拒否の場合は、無理強いせず、相性の良い職員が声かけを行う等、本人に合わせて対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれにあった生活の流れで、休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の内服状況が把握できるよう、内服効用をファイリングしいつでも確認ができる様にしている。状態の変化がある時は、常に申し送り連携を取っている。誤薬のないよう慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれが自分にとっての役割や嗜好を持っている。それぞれの思いを尊重し、役割が継続できるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、買い物や散歩に出かけている。 また、月に1回、地域交流や認知症ケアを目的に屋外活動を企画。家族協力して頂き、実施している。また、日々外出意欲を否定、抑制する事なく、外出支援に心がけている。利用者の希望に添って、自宅訪問も行っている。	入居者は日常的に周辺の散歩や買い物に出かけている。毎月、屋外活動の日を設け家族も参加して名所訪問や外食、バスツアー等を企画して多方面へ出かけている。また、職員は個別に自宅訪問や、家族の協力を得ながら馴染みの美容室へ出かける等の支援をしている。	

沖縄県(グループホームさわふじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、ご本人が買い物をすることもある。また、居室で大切に管理している方もおられる。職員は見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望により電話などの対応はしている。他府県におられるご家族へは、毎月おたよりを郵送している。ご家族からのお手紙返信は、ご本人へお渡し、職員と共に喜びを味わっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やキッチン周りは、季節感が感じられるよう、装飾物を工夫している。フロアーの天窓は、日時や季節、天気が感じられるよう配慮。また、一日の生活のなかで「音楽」の使い方なども工夫している。職員の声のトーンや足音にも配慮している。	フロアーは、思い思いに寛げるようソファーや椅子を配置し、縁側の大きな窓からは庭の野菜を、芝生の庭は外気浴等多目的に楽しめるよう整備している。共用空間は広くゆったりしているが食卓テーブルから、トイレのドアの開閉の度に便座が視界に入ったり、浴室前の脱衣所が、廊下とはカーテンのみで仕切られている。	入居者が、居心地良く過ごす事ができるようプライバシーに配慮した共用空間作りに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人にあった居場所作りを行っている。共用スペースの工夫も常に行っている。共有スペースは、まだまだ工夫が必要と考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は、ご家族と相談し決めている。居室内の家具は、使い慣れたものを持ち込んで頂いている。ご本人が、自分の存在を確認できるよう、家族との写真や安心できる品を置くようにしている。	居室には使い慣れた家具や寝具等を自宅から持ち込み、地震や安全を考慮し配置している。家族の協力を得ながら、家族や本人の写真等を飾ったり、部屋の入口の目印に友人からの贈り物を吊るす等入居者に合せて支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その都度、個人々の状況に合わせ安全で自立した生活ができるよう、ご家族と相談を行い環境づくりに努めている。		